



石かづ河村・中谷・佐久間・初野さん  
佐久間 私は宮園には自主防災会は無いと思っていたので、皆さんと協力して防災会を作りたいね、という話はよくしていたのです。

初野 自治会を中心とした自主防災会が宮園自治会でも必要だということで、宮園でも作るようになると市から話があり、平成18年3月に当時副会長だった佐久間さんにお願ひして、予備費から10万円出して防災用具を購入しました。

河村 平成18年の2月に「自主防災組織検討会」の立上げを運営委員会で承認されたのですが、その後進展が無くて、平成21年4月私が自治会長になる自治会総会で、防災は今後ますます重要になりぜひ自主防災会を立ち上げたいとお話し同意を得て、5月の運営委員会で「防災対策推進専門委員会」

中谷 平成18年に防災用具を10万円分購入したようですが、その後はどうですか。  
河村 いろいろ意見もありますが、それが、平成22年度に収納庫も含めて防災用具を80万円で購入しています。ここから本格的な装備の充実がスタートしたと言えます。

佐久間 その次の年から装備のための予算が30万円付けてもらえるようになりました。まだ必要な資機材はありますので、これから

### 組織・人員体制の現状

#### 組織

自治会会長(秦)を防災会会长とし、本部長1名(佐久間)、副本部長5名(1丁目担当、2丁目担当、3丁目担当、情報担当、避難所運営担当)、更に本部員がいます。また、各丁目ごとに「消火班」、「救出救護班」、「避難誘導班」、「情報配分班」、「給食給水班」、「清掃班」、「衛生班」があり、ここにもそれぞれ副班長、副班長、班員がいます。

◆会長は代表として会務を統括します。◆本部長は会長と連携し、防災活動や有事の際に活動の指揮命令を行います。◆副本部長は本部長を補佐し、本部長の事故時に職務を代行しますが、

▽1丁目担当(鶴谷)、2丁目担当(中谷)、3丁目担当(篠田)は消火、救出救護、避難誘導、情報の各班の統括を行います。▽情報担当副本部長(須藤)は各情報班、連絡調整班を統括します。▽避難所運営副本部長(海野)は物資配分班、給

食給水班、清掃班、衛生班を統括します。◆本部員(初野、天満、河村、小林)、自治会運営委員)は災害時には自治会館に集合し、対策本部として、会長、本部長の補佐、活動全般のため、各班の支援、市本部、各班との連絡を行います。

◆班長、副班長は担当任務の運営班活動の指揮命令を行います。現在は計26名が当たっています。

◎組織図(「自主防災会防災組織編成表」)は各家庭に配布してある「宮園自主防災マニュアル」に載つておりますのでご覧下さい。

### 防災装備(資機材)はどこまで整ったか

阪神淡路大震災時の神戸市の死者の99%は倒壊家屋が原因でした。このデータから、事前に準備する防災資機材は倒壊家屋からの脱出不能者の救出に関わる資機材が最も重要なと判断されます。

河村 アンケートで希望者を調査してから、毎年見直しをし、ヒアリングを行っています。これらもこれを続けることが重要です。

佐久間 よその事情を聞いてもここまで支援体制ができるいる自治会はほとんど無いですね。それでは時間になりましたのでこの辺で。

中谷 そうですね。それでは時間がなりましたのでこの辺で。

石かづ河村・中谷・佐久間・初野さん



らも続けて欲しいですね。

### ◆宮園自主防災会略年表

会員を配置するようになったのですが、1丁目などは人が足りない事、高齢化の問題もありますね。

河村 運営委員も班長も毎年替わりますが、その人たちが防災会に残ってくれるうれしいですね。

河村 災害の時は市や消防が面倒をみてくれるだろう、という認識では通用しません。自分たちの認識では通用しません。自分たちの

は若い人たちにも自主防災会の組織や沿革をよく理解してもらつてぜひ参加してもらいたいですね。

中谷 災害時の避難に手助けを希望している方は今何名ですか。

佐久間 今は37名です。

河村 アンケートで希望者を調べてから、毎年見直しをし、ヒアリングを行っています。これからもこれを続けることが重要です。

佐久間 よその事情を聞いてもここまで支援体制ができるいる自治会はほとんど無いですね。それでは時間になりましたのでこの辺で。

東日本大震災の翌朝「緊急災害対策会議」を開催(平23年3月)  
『宮園自主防災マニュアル』を全戸に配布(平23年8月)

防災対策推進専門委員会を発展的に解消し、宮園自治会自主防災会が専門委員会として一本化の立ち上げ(平22年6月)  
災害時避難の援護希望者(67名)とヒアリング(平22年9月)

市総合防災訓練に市内の全自主防災会を代表して唯一参加(平25年10月)。悪天候の中51名

ブを購入しました(自治会館裏と2号公園の倉庫に収納)。道路140メートルごと15か所に配置されている公設消火栓にスタンドパイプを接続し消火にあたります。

災害時の消火水としては、1丁目は野鳥の池の導水装置1か所、3丁目は野鳥の池の導水装置1か所のみです。今後消火水確保の対策を講じる必要があります。

さらには、流山市消防団の手引きポンプの活用について消防団と連携できればと思います。

①被災状況等の情報収集などに活用する携帯無線機5台、②停電時

の電源確保用の発電機3台、③緊急トイレスット5、④炊き出し用大型炊飯セット2、⑤雨風を凌ぐ大型テントセット2張、⑥防災資機材を分散管理する大型スチール製倉庫3棟。

①防災ヘルメット、②ヘッドライト、③腕章、④ホイッスルを防災組織編成員に貸与し、震災時および訓練時に活用するようにしてい

ます。 (副本部長 中谷彰二)